



平成 29 年 11 月 14 日

～ 電力貯蔵用電池（蓄電池）に使用する電解液の研究開発を支援 ～ QB 第一号ファンド 「LE システム株式会社」 への出資について

西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、地域の事業会社等と共同で出資している「QB 第一号ファンド」（以下「本ファンド」）において、6 件目の投資案件となる「LE システム 株式会社（代表取締役 佐藤 純一）」（以下「当社」）へ出資を行いましたので、お知らせします。

当社は、ニューヨークのアデルフィ大学（コンピュータサイエンス）出身の佐藤 純一 氏が起業したベンチャー企業で、久留米工業大学との電池充電システムに使用する電解液の共同開発、北海道大学との金属バナジウム製造にかかる共同研究及び自社での電解液の製造販売に取り組んでいます。

当行は、地域金融機関として、本ファンドを通じて大学発ベンチャーの成長及び地域経済の活性化を積極的に支援してまいります。

記

1. 対象企業の概要

会 社 名	LE システム 株式会社
本 社 住 所	福岡県久留米市東合川 2 丁目 3 番 39 号
代 表 者	佐藤 純一
設 立	平成 23 年 1 月
事 業 内 容	蓄電池「レドックスフロー電池 ^(※1) 」に使用する「バナジウム電解液 ^(※2) 」の研究開発及び製造販売
資 金 使 途	バナジウム電解液の研究開発に必要な設備資金及び運転資金

※1：バナジウム（原油やオイルサンドに多く含まれる元素）などのイオンの酸化還元反応を利用して充放電する蓄電池。室温での作動が可能であることから安全性が高く、電力系統用蓄電池に適した特性を持っており、発電エネルギーの出力変動の吸収技術として期待されている（発電余剰時の充電及び発電供給不足時の蓄電力の放電）。大型化に適しているため、電力貯蔵用設備として日間負荷変動の平準化や風力発電の発電電力均等化などが主な用途。

※2：電解液とはイオン性物質を水などにより溶解させて作った電気伝導性を有する溶液。当社は、廃棄物中に含まれるバナジウムを原料に安価な電解液とバナジウム応用製品を製造するための研究を進めている。

2. 出資の理由

本件は、レドックスフロー電池に使用する電解液の製造技術の研究開発に取り組む当社の下記の点を評価し、出資を行いました。

（1）蓄電池の市場性

全世界的な再生可能エネルギー導入の推進により、同エネルギーの出力変動への対応として電力貯蔵技術がクローズアップされており、今後の蓄電池の市場成長性が認められること。

（2）蓄電池の発電コスト削減

現時点では、レドックスフロー電池は他の蓄電池（リチウムイオン電池など）に比べ発電コストが高いが、当社が有する特許技術を用いて製造される電解液の使用により電解液製造の原料コストが抑えられ、蓄電池使用における総合的な低コスト化につながること。

（3）地域経済の活性化

大学の研究成果を活用した新たな事業の創出及びベンチャー企業の創業支援を行うことにより、地域経済の活性化が期待されること。

以 上

参 考

『QB第一号ファンドについて』

本ファンドは、当行が九州大学の特定関連会社である株式会社産学連携機構九州と共同で設立したQBキャピタル合同会社が運営するもので、九州地域の大学の研究成果を活用した新産業の創出による九州経済活性化を目的に設立されました。

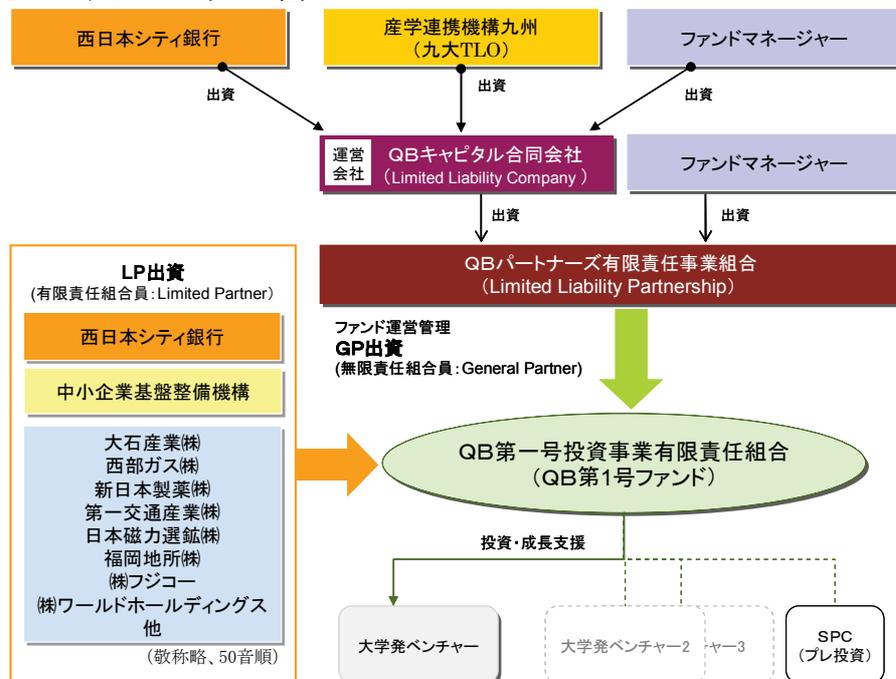
1. ファンドの概要

名 称	QB 第一号投資事業有限責任組合（通称：QB 第一号ファンド）
設 立 日	平成 27 年 9 月
フ ァ ン ド 総 額	約 31 億円
無 限 責 任 組 合 員 (GP: General Partner)	QB パートナーズ有限責任事業組合
有 限 責 任 組 合 員 (LP: Limited Partner)	株式会社西日本シティ銀行、独立行政法人中小企業基盤整備機構 地域事業会社 他
存 続 期 間	10 年間

2. 運営会社の概要

名 称	QB キャピタル合同会社
設 立 日	平成 27 年 4 月
所 在 地	福岡市早良区百道浜 2-1-22 SRP センタービル
出 資 者	株式会社西日本シティ銀行、株式会社産学連携機構九州 他
代 表 社 員	坂本 剛、本藤 孝

3. ファンドスキーム図



本件に関するお問い合わせ先
 法人ソリューション部 渡辺・多良木 TEL092-476-2741